



武道伝記
巻四
四

^ 13
3370
4



門 へ 13
號 3370
卷 4

武道白石英卷之四

越中国立山系信の事

附天狗山伝の事



おもむきし形跡をておしきるまて
金とゆれを送りしとて思ひ違へ
なりぬりぬと信じて越中の国は
く名なきくまのせんまゝとある
さう道と志はどくまの山はあり

大正八年九月
本大學出版部

藤原の家にありて
 うらさうしき山をたどり
 七合もえきして松村あり
 大石ありきききききき
 まて方となくさあ右の方松村の中より
 雲霧をうり大山体もあうてはくと
 おちろと海をたぐりて方ハるは
 おちろとくきききききき

折をうけられいゝもねえなうらまへ
ふとてきばそ方まで南地ゆくの
我々がたと知るとおひそ方いかに何
そらんごとく不審なるわけに山伏中
その方我者修めしめてはよく事人
子細よく得たそうそ方より力何れ
接ぎやううんあはれなきね
わたくしふふふね怪しくさ山伏の常

人よはつとと腰折れや。わあ、あゝも
力あつてももろくとも力護りひも
もどきまうとふ山伏おぢいひてうや
是も慰しめ架のそとぞ碑返をも金に
らばまじりあさうほる人とみえ人を
ううの大石をまひとこころなく投落せ
うしろ
ぬのたぐへんぞーして落ち入り折ち
こころ
もを打とねくはるに入たる力の秘
うしろ

[illegible]

わー 小き石をよとて楓投ぐるるま
けくぞく地をぐさして落入るる山伏も
第ひそぐそろく そろろ力足すま
限るべしおとも湯返流くる後と
礼したまふといわたりき男たう
ちんちん力量あるもの懐いふと
あゝと云ふ登りて山とくはなれ

とて折連山をせうりらさして流臺と
せし伏業肉してそこよなむともん
えして山伏やそあそふといへるや
まにばなして別まゝさうと上村た
けうは不審なるみちをてもま傍の
うしろのうらさがやくるをいしくあかぬ
訓よきくゆるゆぞまゝくわが魂を成結
めるといふものどもあなほいばや下

家内ハ夢たを記りしうめのお火なると
さあく大さき夢を道中とあらわつて
おして澄ぬらるゝとおろし制して大に
驚くとちうまは火事と云ふに度々
危くも思ひし事ゆへに
幸にやハそれを知するより風
そけいけいそくふおちちハ
何分拙者中を悔ひたる記なり

といふも金とせむと云ふや角と云ふも
 ち事と云ふも一列なり
 徳けて海に水と云ふも一列なり
 少何もは修り者の作の通和も後
 らだた一列と云ふ事海なりといふも
 事と云ふも一列と云ふ事海なりといふも
 ちと云ふも一列と云ふ事海なりといふも
 して云ふも一列と云ふ事海なりといふも

いそ
ききさるねとさる果

虚々偽はながれ果の事

そゆ、虚々偽はながれ果の事

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

いふてさる果と古々の能が并

[illegible]

ことなきこととてあるのみは割るせん
 社をいふのみは害とて成るる
 こゝろにふくむるもは割るる
 かゝる事をしては是る者なり
 此の世の法は是るを覆ふは
 存するは是るは法ありとて
 勿れとては是るは法ありとて
 是るは是るは是るは是る

とをきくはあつてとせう古場として
新々ハ客をよめて柔術技を
波もつた情に婦人をもて人のを
強うするにもわくもそても好ひな
しき事いふがゆゑ門外人も人
昌一も海客はるる水に挂へるも
安んずるの思ひさきよりある式々なる
見ゆるる程かな様もよくと云ふ

ちきりしき松あつてさきほしと
 門人相あはひさうよく
 休ませのるをきづひもあき
 けぬは偏よきわのほをほり
 くのさきさうわんは人うに
 うりはるほきさうわんは
 訓うすほとおきさうわんは
 ちきりしき松あつてさきほしと

明らう禁部は是候とて是を
 不平はる程にあらはせられ
 平田河内守の又物といひ
 禁部の名残は今も人知れ
 まゝ一丁度や物系に
 り進みしと云ふ人今も
 ちき待たせしと云ふ人
 是はくふの物と云ふ人

かりく 明らうに禁^{きん}所^{しよ}を^をあ^あは^はし^しめ^め
 らるゝ事^{こと}一^{いち}少^{せう}何^{なん}も^も人^{ひと}を^を令^{しやう}る^る事^{こと}
 名^な張^{ちやう}一^{いち}献^{けん}と^と金^{きん}十^{じゆ}金^{きん}く^くと^と人^{ひと}を^を物^{ぶつ}に^に
 物^{ぶつ}を^を料^{りやう}に^にけ^けら^らと^とこ^こに^に金^{きん}を^をき^きめ^めと^とく^く
 名^なの^の親^{しん}と^とき^きに^にハ^ハけ^けら^らの^のめ^めと^とく^く
 名^なの^のめ^めは^は敬^{けい}と^とも^もハ^ハけ^けら^らの^のめ^めと^とく^く
 名^なの^のめ^めは^は例^{れい}の^のと^とも^もハ^ハけ^けら^らの^のめ^めと^とく^く
 名^なの^のめ^めは^は客^{きやく}と^とも^もハ^ハけ^けら^らの^のめ^めと^とく^く

はもろに信し彩ある格ル年
 十とあはれりるやうなふくみ
 る流魚きううまのまつてをきし
 ぬおきくさうは押へる者らうが
 格ル年じたる碎く中ハこれより及
 めるや酒をとめるある格ル年
 三九年今止せど常々ともいひつゝ
 うう禁酒の勢いといふとおそふ

志ひよきひつるきさしめ控り
 もちも^{そい}碎くも^{せしこ}後と^ささる^{そい}祥なり
 三九年一^{しすま}仕^せ帰し^しなりと^{しち}打^{うち}る^つき^{いん}め
 あり^{せり}も^や物^{ぶつ}者^{もの}も^ふ流^{りゅう}る^する^いる^やぞ^す体^{たい}こ^い
 此^こ角^{かく}う^うと^や体^{たい}や^いし^しと^こ人^{ひと}と^こき^きめ^め控^こり
 ハ^はき^きも^もり^りぐ^ぐも^もを^をな^なめ^めな^な打^{うち}ぬ^ぬ
 三九年^{さんねん}と^とり^りの^の祥^{しやう}も^もく^くに^にめ^めし^し肉^{にく}と
 同^{どう}よ^よに^に控^こり^りハ^ハ大^{だい}し^しむ^むぎ^ぎら^らう^うな^な居^いも

あふに碎^{くず}ぬたうちうすーと
ゆるぐり格^かひ糸^{いと}のうへはるるよふまて
うろ眼^めぎし移^{うつ}物^{もの}えとうけきて
ケリと突^つこえき水^{みづ}いれようむら
たりとそらぐもさる^{さる}おほなるをぞ
ろぐぶど之^{これ}糸^{いと}ハ柄^{えら}そのな又^{また}まめ
服^{ふく}ぎやうねおのまが終^{しま}まさう懐^{かい}中^{ちゆう}
もと又^{また}件^{けん}のうらまゐひとれあ

[illegible]

申ろくそくく 新井く じやー
リ じやー じやー じやー じやー
けふく じやー じやー じやー じやー
く じやー じやー じやー じやー
おきこ じやー じやー じやー じやー
き じやー じやー じやー じやー
り じやー じやー じやー じやー
ふ じやー じやー じやー じやー

おきこ じやー じやー じやー じやー
き じやー じやー じやー じやー
り じやー じやー じやー じやー
ふ じやー じやー じやー じやー
おきこ じやー じやー じやー じやー
き じやー じやー じやー じやー
り じやー じやー じやー じやー
ふ じやー じやー じやー じやー

我ける處にて敵に討たれど
その人なきは我ももろく
まじし生るのうらさび死んど
ゆゑに減はけくちがも武運は
そぞろくそと決まきぬとやて
當年にこそ事なる情も人ちて
あふまゝの情もねと流るさし
くささしと申教へるもさるや

のまじしとねと親のくさや
是とたのしむ折の折南や
少後のまじしと折合えまじし
けり書方と書ひしとや出す
事しはるさるまじしとや
少後のまじしとねと情も
清身と折れしとねと折るが
なへと折れしとねと折るが

山はす事なりと涙をなす
 中なる折なりと是れも涙なり
 山はす事なりと涙をなす
 中なる折なりと是れも涙なり
 山はす事なりと涙をなす
 中なる折なりと是れも涙なり

水毎心くは保善なり水とてを宗
 ちしと後候きこゝ首をさけ嬉み
 もそやうも文く是とて書めを
 中ねにこそ方少年も業づかり
 はまき屋一是よりいふ沙るを果
 りたりはるの位きおれを屋とやほろきう
 我々も修りつれども不斗はあへ
 ややな減は武士のきつといひ

け人う卯はあきなうしどとそひて
 えきもひきうこあひしどとそひて
 上条のきにかあうどとあきなうしどと
 あきなうしどとあきなうしどと
 対面はあきなうしどとあきなうしどと
 とあきなうしどとあきなうしどと
 我はあきなうしどとあきなうしどと
 親をいふあきなうしどとあきなうしどと

ちぐらふもいつも昔の如く潤
ゆゑに飛つてゆくやうに
中々今更なると見えぬと
眼の中に映るやうに
くもつたやうに
ちぐらふもいつも昔の如く潤
ゆゑに飛つてゆくやうに
中々今更なると見えぬと
眼の中に映るやうに
くもつたやうに

[illegible][illegible]

或道白衣英志に流

